しゃくなげ会（静岡滋賀県人会）会報
第八号（二〇一二年三月）

近江商人余話４

山中家の家訓

◇山中家は日野出身、代々漆器製造を業としたが、初代兵右衛門は日野椀二駄を駿河国沼津に持ち下り、同地伊勢屋を定宿として周辺各地に行商し、帰り荷には東国の産物を仕入れてこれをひさぎ、刻苦幾年、産を成して享保三年（1718）には店舗を御殿場に開き、呉服太物商を始め仙台方面にまで商網を張った。二代兵右衛門もまたよく父の業を継ぎ、御殿場にて酒造業を創め、沼津および相模芦村に支店を出した。二代兵右衛門が享和二年（1802）に制定した家訓が残っていて、わが国の経営史上、貴重な史料である。

◇第一条では、惣年寄役を仰せつかったところから、役儀の他に封建権力を傘にきて一般町民に相対することがないように、更なる陰徳に心がけるべきと自戒している。

◇第二条は近江商人の信仰を語るものであり、三条・四条・五条においては、商売にあたっては実直を旨とし、不正粗悪の品を売ってはならぬ、高利を貪ってはならぬ、と訓戒し、六条では客扱いの大切さを述べている。

◇第七条・八条では派手な投機類似の商法を戒めている。

第九条は祖法墨守、伝統第一をうたい、最後の十条で奉公人を憐れむことを説く。

参考　江頭恒治「近江商人」（アテネ新書・弘文堂）

ふるさと「近江日野」を慕う

山中 利之（日野出身）

近江日野商人の末裔である私は、「ふるさとは？」と問われると「近江（滋賀県）日野です。」と答えますが、出生地は神奈川県小田原生まれの小田原育ちです。最近では区別していませんが、本来の近江商人は滋賀県出身でなお且つ県外で商いをしている商人を総称しています。それからすると「私は誰でしょう？」などと、馬鹿なことを思わないでも有りません。終戦により時代が変わり、国元からの指図では商いが成り立たず、当家も私の父や叔父が戦前６店舗あった店の内、残った小田原店、御殿場店にいち早く赴き、倒産や乗っ取りを免れ、今日に至っております。

その様な訳で小田原生まれの私は、母に連れられてよく日野に帰省？しました。東海道線も昭和３０年頃までは急行列車が無く、小田原を朝６時頃の各駅停車で米原まで１０時間ほど、更に近江鉄道で１時間半、日野に着くと日はとっぷりと暮れていました。就学前とはいえ、小田原、早川、真鶴、湯河原・・・と米原までの駅名を暗記してしまい、今でも大方覚えています。

小学六年の夏休み、初めて一人で日野まで（祖母が米原まで迎えに）行きました。その後、中学、高校と一人でよく日野へ赴き、滞在中は自転車、バス、電車で方々に出歩きました。ある時、遊び歩いた帰り近江電車の中で知らない人に「山兵さんでしょ！」と挨拶され、時には、日野駅で「あなたの乗るバスはこれよ」と教えられ、不思議に思い祖母に問うと「おじいさんの若い頃や戦死した伯父さんにそっくりだから、山兵の顔をしているからよ！」と笑っていました。大学の卒業証書には滋賀県と記されており、やはり私は滋賀県人なんだと感慨に慕っております。

昭和５４年に祖父がなくなった2年後の５６年春に本宅を町に寄贈し、同年秋に「近江日野商人館」を開館して、昨秋で開館３０周年を迎え、その間、平成１７年に父が没し、山中兵右衛門の足跡だけを残し、敷地の９割を町に寄贈してしまい、今では帰省しても泊る家は有りません。

山中家は現在の甲賀市土山町山中に住まいしていたことにより、延喜１３年（西暦９１３年）に山中の姓を賜りました。来年は山中姓を名乗って１１００年の区切りの年です。現在も地図上で国道一号線鈴鹿峠西麓に明記される地名として残っていることからしても、滋賀県を愛して止みません。第２のふるさとではなく、第１のふるさととして、これからも深く心に留めておきたいです。

～5456 5456～　豪志語録

一月二十日（金）　米国二泊。フランス十二時間。飛行機で三泊。弾丸ツアーにも慣れましたが、旧知のビゴ原子力庁長官に、パリはゼロ泊だと伝えると、「人生は短いよ」と言われてしまいました。今回は機中のマカロンで我慢です。

一月二十九日（日）　ガレキの山は、我々の無力さの象徴です。このガレキの広域処理がすすみません。本来は、日本中で鎮魂の祈りと共に処理されるべきものが、拒絶される現実は、あまりにも悲しい。

二月十三日（日）　岩手県大槌町は壊滅的な打撃を受けましたが、発生したガレキの一部は薪として全国に販売され、復興のシンボルとなりました。十六日に大槌町のガレキを試験焼却する島田市は、処理費を被災地に請求しないそうです。

二月十八日（土）　ようやく川内村を訪れることができました。帰村宣言を行った村の実情をこの目で見なければならないと考えました。遠藤村長は本当に穏やかな人です。私は遠藤村長を徹頭徹尾、支えるつもりです。

（以上はメルマガより抜粋）

三月四日（日）

「しゃくなげ会」のご開催を祝し、ご盛会を心よりお喜び申し上げます。

昨年は、東日本大震災、そして原子力発電所の事故と多くの皆様の生活が一変してしまいました。

政治家として、本年は東日本大震災からの復旧復興と原子力事故の克服が最大の課題です。

国会に送っていただいた１２年前から、私は、政治家としてなすべきことは何か、自問自答してきました。３・１１以降、その迷いはなくなりました。阪神大震災のボランティアをきっかけとして政治家を志した私の使命を全うしなければ、政治家としての価値はありません。

さて、現在世界的な経済の危機的状況は、我が国においても大きな影響を及ぼしており、円高による産業・雇用の空洞化に対する懸念など、課題は山積いたしております。

これらの緊急課題に加え、私たちの原点である無駄遣いの削減を初めとした行財政改革をしっかりと行った上で、今まで先送りされてきた社会保障などの課題につきましても、正面から取り組まなければなりません。

日頃からお支えいただいております「しゃくなげ会」の皆様に、少しでも結果でお示しをできるよう、与えられた使命を全うする覚悟です。

今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

衆議院議員（環境・原発担当大臣）　細野 豪志（近江八幡出身）

老年暴走族だより

〔Ⅷ 効率良い走り〕 平田 文一（近江八幡出身）

一昨年の暮れに新しい車に買い換えて一年が過ぎました。

年間の走行距離が二十五パーセント減少したのは、遠出が少なくなったからと思います。

昨年九月末にＯＢ会が蒲郡で開催され、当日は二十六名もの参加者があり、にぎやかで盛大な宴になり、うち三名は退職以来の再会でお互いに当時の話題で盛り上がりました。

翌日は二人の悪友と連絡をとり、もう一泊しょうという事で宿泊先は知多半島の先端にある日間賀島に決まり、まず豊川稲荷に参拝し知多半島の東岸を南下して師崎港に車を止め船で渡りました。

周りには篠島や佐久島などがありますが、日間賀島が人口も多く一番にぎやかであるとの事でした。この島はタコ漁が有名で他にシラス漁などの漁業と観光で成り立っている様です。翌朝、自転車で島を一周しましたが二十分位で回れ、朝の気持ち良い空気に触れる事が出来ました。

電車組の二人が名鉄の河和駅から帰ると言うので、十一時頃駅の喫茶室でコーヒーを飲んだあと、それぞれ北陸の金沢と岐阜の可児に帰って行きました。往きも帰りも潮見峠の道の駅で遠州灘を眺めながらお昼を食べ楽しい三日間でした。

十一月には京都、奈良、滋賀に三泊四日の日程で出掛けました。

初日は京都に午後到着し妹夫婦とよもやま話をしたり、夕食に出掛けたりして過ごし、翌日奈良に向かい平城京跡をはじめ唐招提寺や薬師寺などを参拝した後、長谷寺に行き紅葉を見ながら散策して来ました。当日の宿泊は飛鳥駅近くのペンションに泊りました。

翌日は、高松塚古墳の本物の壁画が公開されているとペンションのオーナーに聞いていたので最初に行ったのですが、休日の月曜日にあたり見る事が出来ないので、仕方なく模写の壁画を見て来ました。

次に、亀石を見て石舞台古墳に行ったのですが、駐車場が満車でそのまま談山神社に向かい紅葉を満喫し、石舞台に戻り車も止められたので見学したあと飛鳥寺の大仏を見、お昼を済ませ橿原神宮に参拝して京都に戻りました。

その翌日は、いつもの様に近江八幡に行き両親の墓参をして、やもめ暮らしの実兄の様子を見に実家に寄ると、医者に注意されて酒もタバコもやめて顔色も良くなった姿に安堵して帰ってきました。前半で述べました蒲郡行きは有料道路をまったく利用せず、五箇所のバイパスを通って一般道路を走り、距離は五百キロ位でガソリンは沼津に帰ってから入れましたが五千円少々でした。

今後は信号も少ないバイパスを利用し、時間も余裕をもって一定速度で走る事により、燃費効率の良い走りをしたいと思っております。

滋賀の味 ⑧ 「近江牛」

近江牛は肉の肌理が細かいのが特徴とされ、その分、柔らかくなります。

良い近江牛には霜降りが充分にあり、口に入れるや、まろやかな風味が口いっぱいに広がります。肉自体が美味なので、調味料は最小限に抑えて調理されます。

近江そして・・・ ―六―

伊藤　正（安土出身）

関西の地から、静岡の思い出を投稿させていただきます。

一四年前の三月、浜松（当時は浜北市）へ来た当時は、遠州鉄道（新浜松―西鹿島）の遠州岩水寺駅から五分位の所にあった古い社宅に住むことになり、歩いて二十分ほどの天竜川河川敷にある会社へ通っていた。単身赴任であったこともあり、土日の休日には近くの散策等で費やしていた。その折、付近に”小さなお宮さん”のような建物が目につき、行動範囲が広がるにつれ形は異なるが数多く建てられていることに気付いた。会社で地の人に聞くと、「おじいちゃんに聞いてみる」と言って・・・。また当時の中日新聞の連載「塩の道」の記事などから、火防火伏せの神である秋葉山信仰にまつわる常夜灯で「龍燈」とわかった。秋葉街道沿いに建てられ、中に灯篭が納まっているものや建物（鞘堂）だけなどがあり、隣保・町内会で維持して毎年秋場神社でお札をもらい（代参）祭って（お日待ち、まつり）いるところもある。地域的には、本宮のある浜松市がずば抜けて多いが近隣の街はもちろん、県内では焼津や御前崎、西は愛知県の新城、豊川、豊橋にも存在していて、さらに西や、長野県側の秋葉道には、鞘堂はなくなり灯篭だけになっていく。秋葉神社は、AKB48や世界有数の電気街として知られる秋葉原をはじめ、全国に多く存在しているが、江戸時代中期以降の秋葉詣ではお伊勢さん参り並に賑わっていて、秋葉街道にも多くの道があり、信仰面だけでなく道しるべとしての龍燈も数多く建立されて現在に続いていると考えている。遠州在住時、折を見て訪れた数は二百を越えてしまった（詳しくは、一部未整理ですが、http://akiba.geocities.jp/tasii08を覗いてみてください）。

龍燈・鞘堂探しのなかで、いくつかの道は「塩の道」とダブっていることに気付いた。「敵に塩を送る」で有名な越後の上杉謙信が甲斐武田に塩を送ったとか。当時、武田・北条・今川の三国同盟を桶狭間で今川義元が信長に討たれたのを機に、信玄が今川を攻めた。このため太平洋側からの塩が途絶え、日本海側から塩が送られたのは事実のようである。この戦時情勢とは関係なく、日本海側と太平洋を結ぶ「塩の道」は幾つかあったが、姫川に沿って糸魚川―信濃大町―塩尻―高遠―青崩峠―森―掛川―相良の道の静岡側は秋葉道でもあった。

遠州へきて一年過ぎたころ、信濃大町に住む知人に会う機会があり、その地の居酒屋で杯が弾み、お客の会話を聞くともなく耳にしているうちに、話のイントネーションに何故か私にシグナルを発した。どこかで聞いたことがある・・・？　浜松の遠州弁に似ている――これはずっと昔から続いている「塩の道」によるんだ！と確信した。こんなこともあり、相良―青崩峠ルートの大半を巡ったが、途中新しい龍燈に巡りあえたり、土地の人との出会いで昔の歴史のエピソードなどを聞くこともでき、静岡を再認識すると共に益々好きになってしまった。

（写真は右から、龍燈、青崩峠、昭和四〇年代の御前崎灯台）

近江の名句・名歌 ⑧

秤（はかり）から堅田のもろこ跳（は）ねて落つ　飴山實（あめやまみのる）

飴山實（一九二六―二〇〇〇）は著名な俳人にして化学者。
この句の季語は「もろこ（諸子）」《春》、コイ科の細長い小魚で、もっとも有名なのは琵琶湖の体長・十数センチの本諸子。旬は早春の二、三月である。

滋賀県の文化施設6　陶芸の森

やきものを素材として、創造、研修、展示など多様な機能をもつ公園として、滋賀県から世界へ情報発信することを目的に整備され、平成二年に設立された財団法人です。創作研修館は、世界各国から陶芸家を受け入れ、常時十名前後の作家が創作に取組んでおり、作風や国籍の異なるユニークな創作環境となっています。

☆ 滋賀県甲賀市信楽町勅旨二一八八―七
☆ ＪＲ草津駅より草津線に乗り換え、貴生川駅下車、信楽高原鉄道に乗り換え、信楽駅下車、徒歩二十分
☆ 東名阪自動車道の亀山ＪＣＴから新名神自動車道の信楽ＩＣへ
☆ 信楽ＩＣより約八分
☆ 九・三〇－一七・〇〇　月曜休館
☆ 料金　無料　陶芸館（美術館）のみ有料
☆ お問い合わせ　0748-83-0909

次回例会予告

日時　二〇一二年九月二日（日）　一二時三〇分より
会場　三島市民文化会館　二階和室
会費　二〇〇〇円
お土産　「ゴリの佃煮」の予定

滋賀県にゆかりのあるお知り合いをご紹介ください

この会報を長く続けたいと思います。原稿は左記へお寄せください。
会報をお望みの方は返信用封筒を同封し、左記へお申越しください。

（発行所）〒410-0874 沼津市松長九二一―六―一〇〇三　三上　八郎